

## 令和3年度 第2回 豊中市上下水道事業運営審議会

【日時】令和4年(2022年)1月20日(木) 10時00分～

【場所】豊中市上下水道局庁舎 4階 会議室

### 次 第

「第2次とよなか水未来構想」に基づく取り組みについて

○新たな料金・使用料水準及び体系の検討

<資料>

【資料1】「水道料金・下水道使用料算定の手引き」の役割りと構成

【資料2】料金・使用料算定の考え方

【参考1】他団体比較

# 「水道料金・下水道使用料算定の手引き」の役割りと構成

2022.1.20  
豊中市上下水道局



豊中市上下水道局キャラクター  
アクッピー

# 「水道料金・下水道使用料算定の手引き」の役割

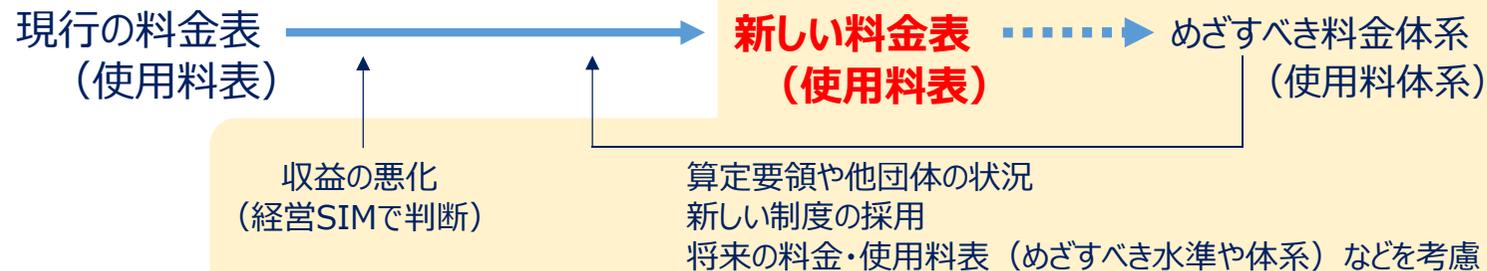
## ＜手引き策定前の料金・使用料改定イメージ＞



### ＜これまでの課題＞

- ✓収益の悪化を踏まえて、その都度、適正な料金・使用料を設定
- ✓収益の悪化を改善することが改定の主目的
- ✓事業環境を踏まえた、「将来のめざすべき料金・使用料体系」は念頭においていなかった

## ＜手引き策定後の料金・使用料改定イメージ＞



### ＜これからの考え方＞

- ✓着色部分を手引きに盛り込む
- ✓改定の考え方を手引きに集約し、見える化
- ✓水需要の減少に耐えうる「めざすべき料金・使用料体系」を考慮
- ✓手引きは継続的に見直しを行う

※審議会の意見を手引き全体に反映

# 「水道料金・下水道使用料算定の手引き」の構成・目的

- ①手引きは、本編と資料編の2部で構成
- ②本編は、前半に「料金・使用料算定の考え方」を掲載し、その内容を後半の「料金・使用料改定ツールの使い方」に反映
- ③手引き（第1版）の完成後は、資料編の内容を継続的に見直し、必要に応じて本編に反映
- ④手引きは職員向けの資料であり、新しい料金・使用料表を作成することを目的

本 編		資料編
<p style="text-align: center;"><u>料金・使用料算定の考え方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○改定のタイミング（経営SIMでアラートを察知）</li> <li>○改定のスケジュール（必要な手続きや工程）</li> <li>○経営SIM、経営目標</li> <li>○料金・使用料水準の検討</li> <li>○体系の検討（逓増度等）</li> <li>○定期的な見直し</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><u>料金・使用料改定ツールの使い方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○水道料金改定ツール（エクセル）マニュアル                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・総括原価の算定や分解、配賦の方法</li> <li>・<b>新しい水道料金表の作成</b></li> </ul> </li> <li>○下水道使用料改定ツール（エクセル）マニュアル                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・汚水や雨水の区分方法</li> <li>・使用料対象経費の算定や分解、配賦の方法</li> <li>・<b>新しい下水道使用料表の作成</b></li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;"><u>過去の経過や分析の結果など</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの論点整理                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→基本料金と従量料金のバランス、逓増度、資産維持率</li> </ul> </li> <li>○料金・使用料算定の基本的な事項</li> <li>○水使用の実態（顧客分析）</li> <li>○料金・使用料の変遷</li> <li>○これまでの取り組み                             <ul style="list-style-type: none"> <li>→費用の抑制策、各種計画の策定</li> </ul> </li> <li>○他団体との比較</li> <li>○お客さま説明会資料</li> </ul>

- ・赤枠が、手引きの根幹部分
- ・赤枠部分の一部については、「資料2」で審議

※継続的に見直しを行い、必要に応じて本編に反映

# 「水道料金・下水道使用料算定の手引き」の継続的な見直し

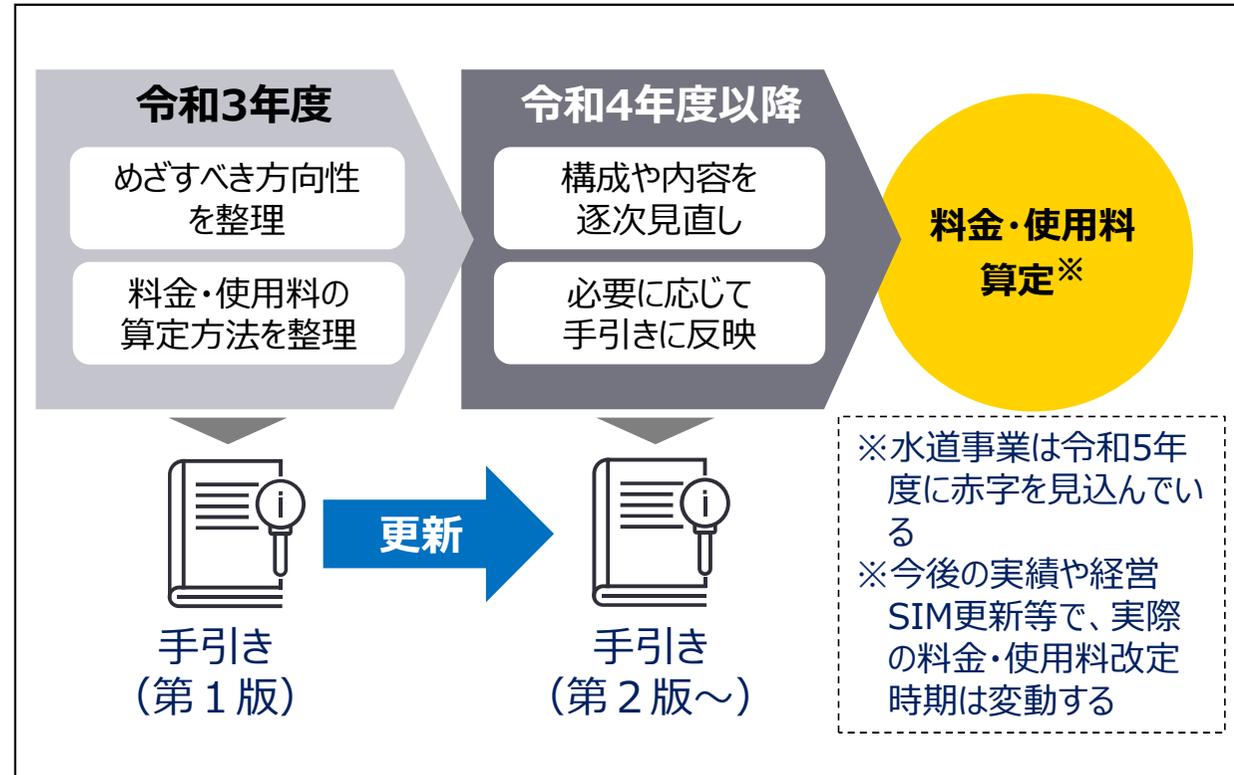
## <手引きに関する対応方針>

- 第1版：令和3年度までに整理した内容を取りまとめ
- 構成や内容を逐次見直し、手引きを更新
- 将来の改定に備える



## <今後の主な更新（ブラッシュアップ）内容>

- 水使用の実態の変化を反映
- 他団体の調査内容の追加・更新
- 料金・使用料改定に備えた広報ツール等を検討
- 経営目標の追加、料金・使用料体系等の検討



# 料金・使用料算定の考え方

2022.1.20  
豊中市上下水道局



豊中市上下水道局キャラクター  
アクッピー



## (参考) 料金・使用料検討の位置付け

「新たな料金・使用料水準及び体系の検討」は、第2次とよなか水未来構想のめざすべき将来像のひとつに位置づけている

### 第2次とよなか水未来構想 (平成30年度～令和9年度)



答申の様子 (H29.11)

めざすべき将来像

将来像1 安心して利用できる水の供給

将来像2 快適な暮らしとまちづくり

将来像3 災害に強い上下水道の構築

将来像4 環境にやさしい事業の展開

将来像5 次世代につなげる経営基盤の強化

将来像6 満足していただける事業活動

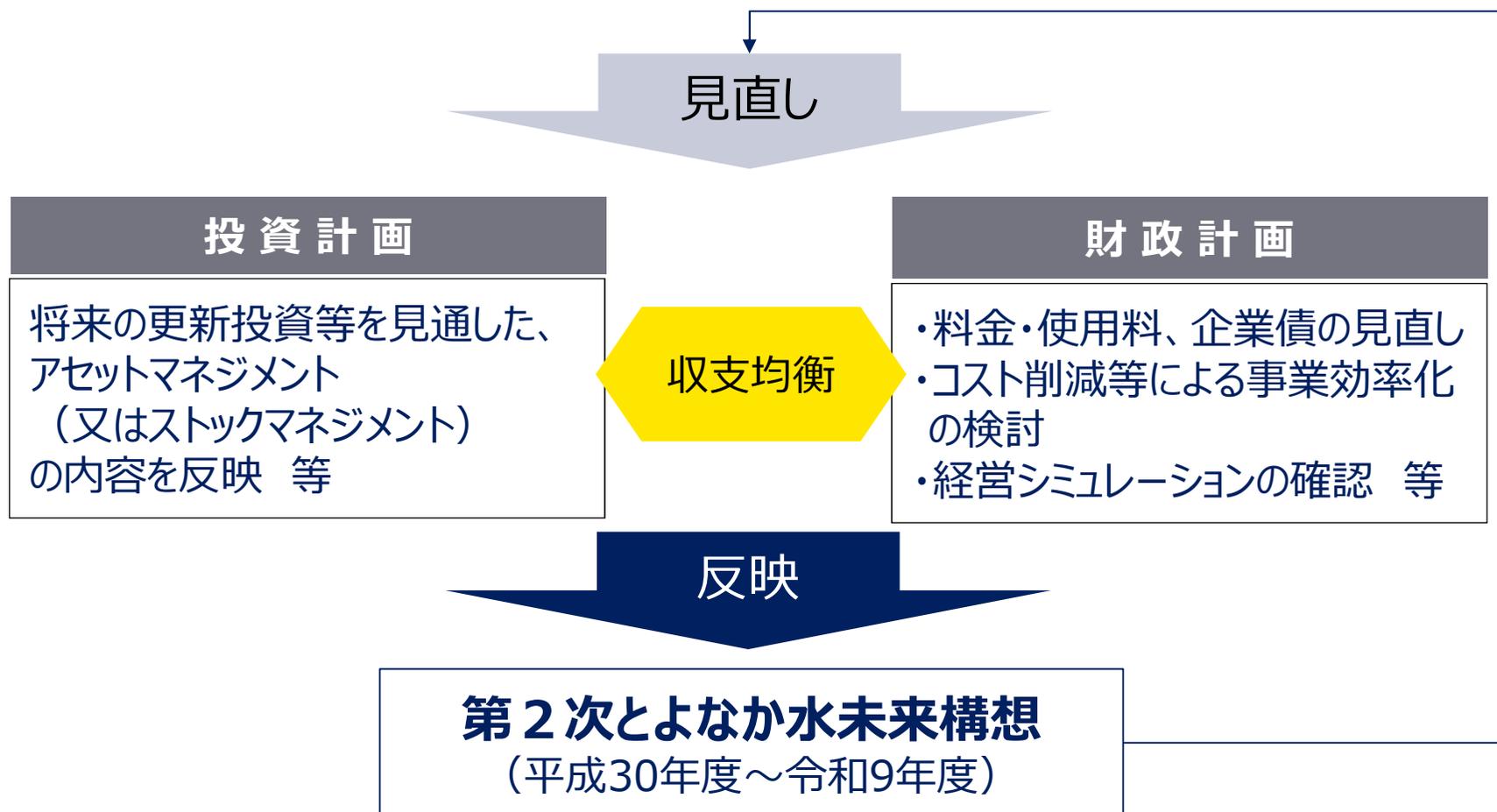
5-1 財政基盤の強化

5-2 **新たな料金・使用料水準及び体系の検討**

5-3 経営資源 “人材” の確保

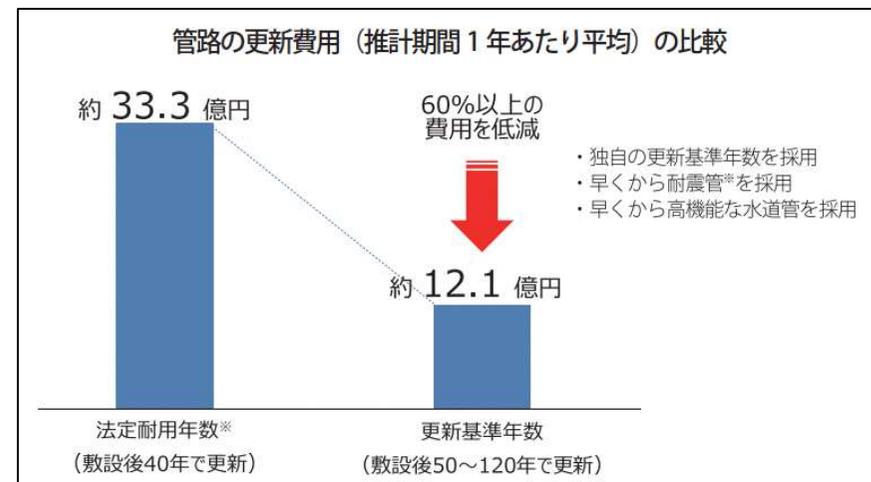
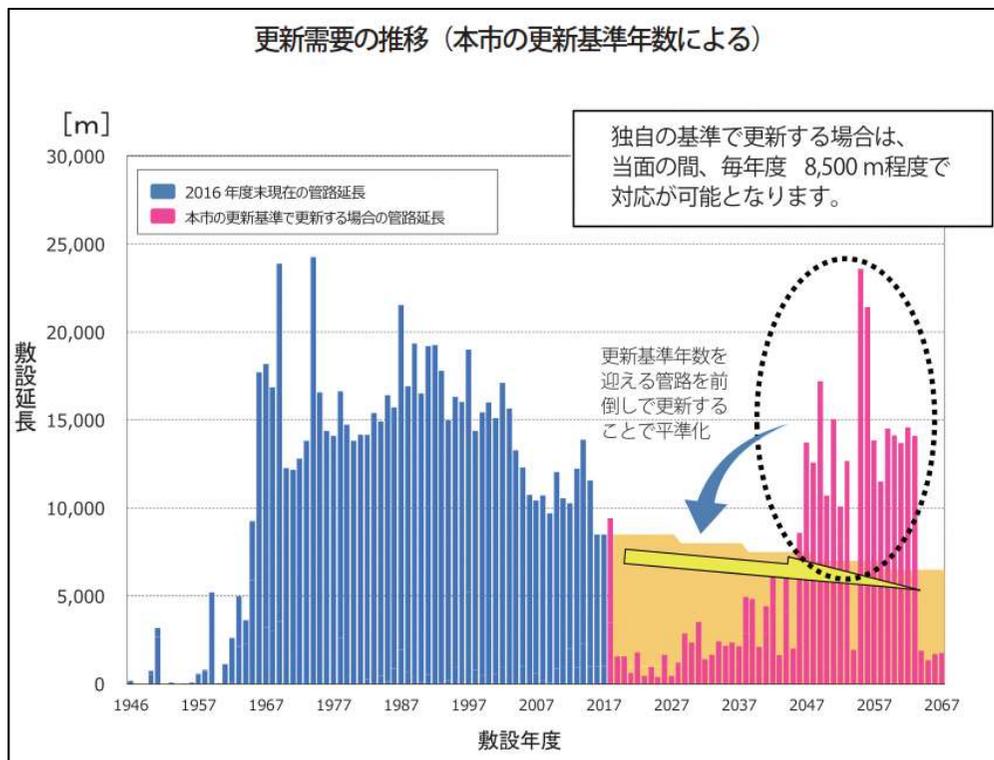
## (参考)「第2次とよなか水未来構想」の全体イメージ

- ✓ 将来の更新投資を見据えた中長期の投資計画を策定
- ✓ 財源の裏付けとなる財政計画を策定 = 収支均衡を図る
- ✓ 達成状況を踏まえて3年ごとにフォローアップを実施



## (参考) 水道事業 アセットマネジメントの考え方

- ✓ 独自の更新基準年数を採用して費用を低減
- ✓ 投資の平準化で長期的に安全と安心を確保



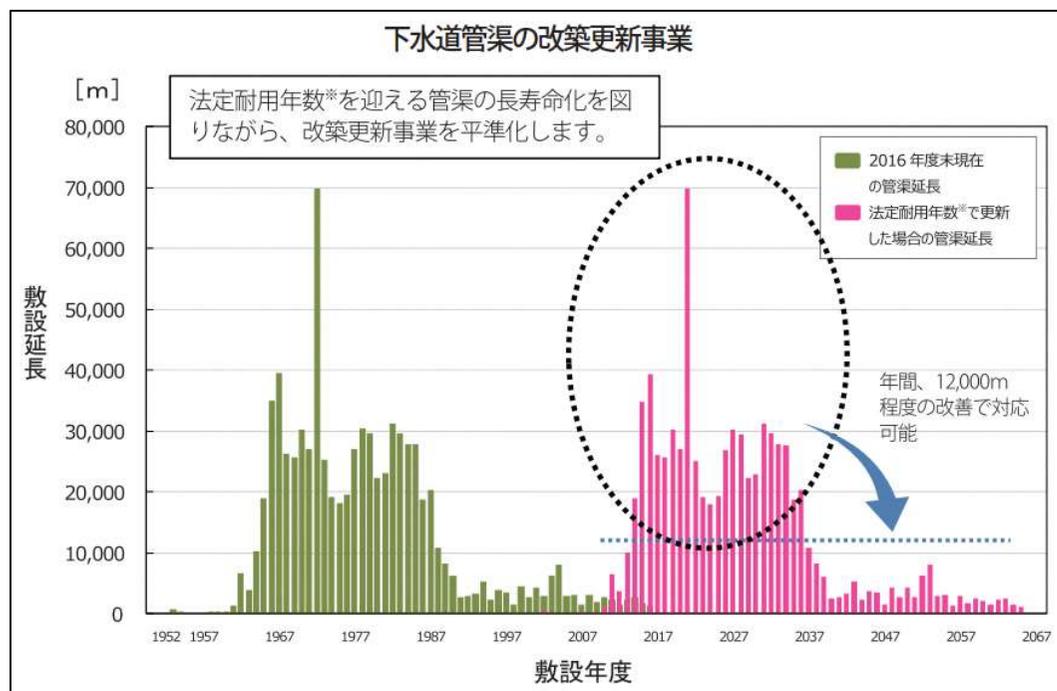
- ✓ 独自の更新基準年数を採用し、1年あたりの費用を60%以上低減

出典：「第2次とよなか水未来構想」

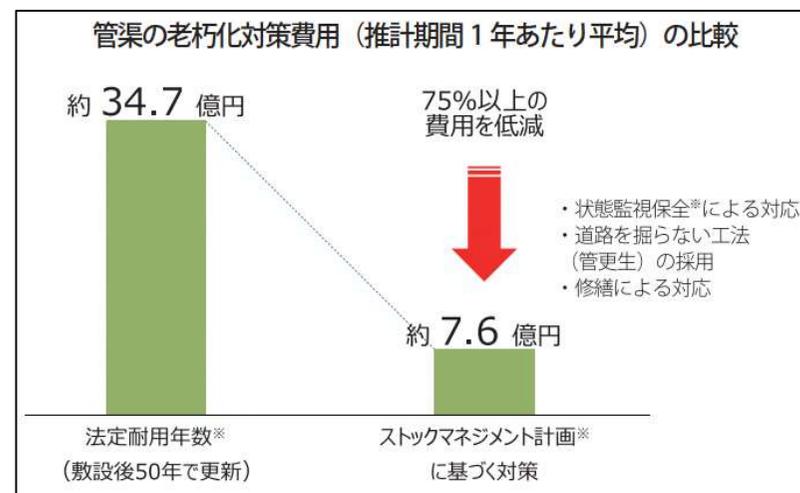
- ✓ 独自の更新基準年数を採用し、1年あたり8,500m程度の更新で対応可能 (投資の平準化)

## (参考) 下水道事業 スtockマネジメントの考え方

- ✓ 調査データの活用と、監視保全による対応で費用を低減
- ✓ 投資の平準化で長期的に安全と安心を確保



- ✓ 調査データの活用や、状況に合わせた修繕・改築更新を行うことで、1年あたり12,000m程度の改善で対応可能（投資の平準化）



- ✓ 投資の平準化に加え、道路を掘らない工法（管更生）の採用で費用を低減

出典：「第2次とよなか水未来構想」

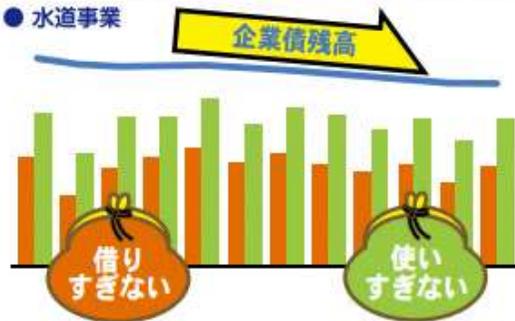
## (参考) なぜ、今、料金・使用料を検討するのか

- ✓ 前述の投資計画等を踏まえても、将来的に厳しい経営状況が見込まれる  
⇒ 料金・使用料の適正な水準及び体系について検討が必要

### 建設改良費(投資額)、企業債発行額及び残高の推移

建設改良費(投資額)の平準化を図りながら、企業債残高を適切に管理し、将来負担への影響を考慮しています。

#### ● 水道事業



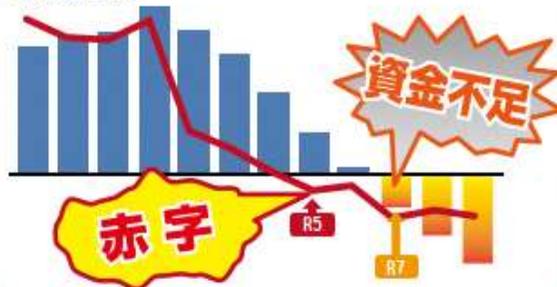
#### ● 下水道事業



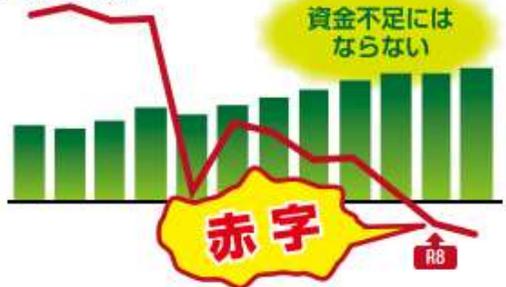
### 豊中市の今後の経営状況

水道事業も下水道事業も、収益が年々減少し、厳しい経営状況が続きます。特に水道事業では計画期間内に、資金が不足すると推計しています。

#### ● 水道事業



#### ● 下水道事業

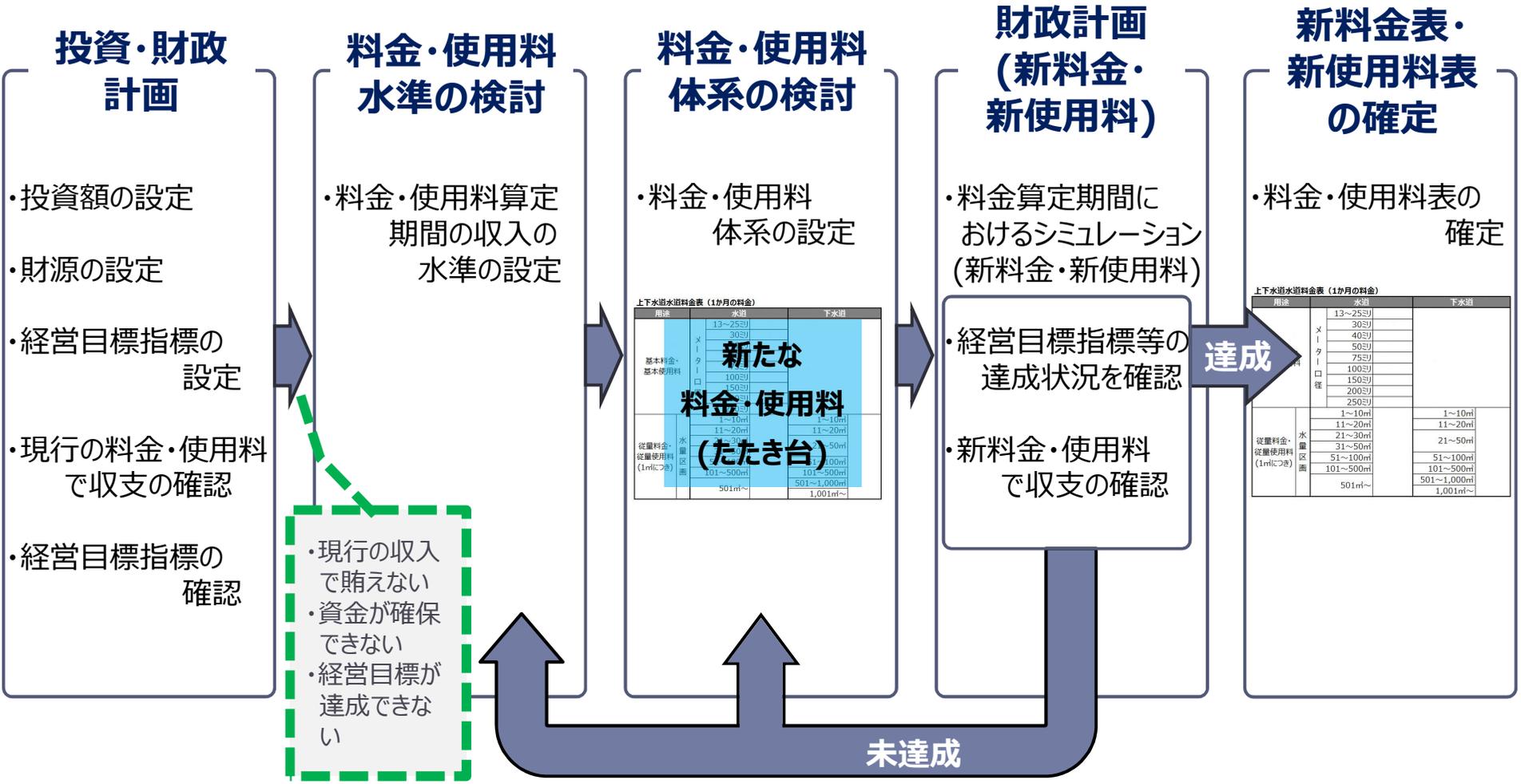


## めざす方向性

新たな料金・使用料水準及び体系の構築について検討するなど、適正な料金・使用料負担による資金の確保を図る。

出典：「とよなか ミズのミライ」

# (参考) 料金・使用料検討の流れ



上下水道水道料金表 (1か月の料金)

用途	水道	下水道
メーター	13~25㍓	
基本料金・基本使用料	20㍓	
メーター	100㍓	
基本料金・基本使用料	50㍓	
従量料金・従量使用料 (1㍓につき)	11~20㍓	1~10㍓
水量区画	101~500㍓	50㍓
	501~1,000㍓	101~500㍓
	1,001㍓~	501~1,000㍓

**新たな料金・使用料 (たたき台)**

上下水道水道料金表 (1か月の料金)

用途	水道	下水道
メーター	13~25㍓	
基本料金・基本使用料	30㍓	
メーター	40㍓	
基本料金・基本使用料	50㍓	
メーター	75㍓	
基本料金・基本使用料	100㍓	
メーター	150㍓	
基本料金・基本使用料	200㍓	
メーター	250㍓	
従量料金・従量使用料 (1㍓につき)	1~10㍓	1~10㍓
水量区画	11~20㍓	11~20㍓
	21~30㍓	21~30㍓
	31~50㍓	51~100㍓
	51~100㍓	101~500㍓
	101~500㍓	501~1,000㍓
	501~	1,001㍓~

# 前回の振り返り – 今後の審議事項 –

## 1 めざす経営の方向性を踏まえた目標指標の追加

### 水未来構想における経営の目標指標

- ✓ 水未来構想において、水道事業では流動比率100%以上・料金回収率100%以上、下水道事業では経費回収率100%以上を目標としている
- ✓ 上記以外に目標指標の追加を検討

### 指標の追加項目

- ✓ 料金・使用料改定に向けて、めざすべき損益状況や資金保有残高を追加することを検討

## 2 新たな料金・使用料水準及び体系の検討

### <主要な論点>

#### ①資産維持費

- 現状の課題：  
必要な更新投資の観点から算定されていない
- めざす方向性（案）：  
「水道料金算定要領」等に従って算定式を見直し、将来の資産維持を可能とする水準を検討

#### ②基本料金と従量料金のバランス

- 現状の課題：  
大口利用者ほど従量料金の比率が高く、将来の水量減少に対して脆弱な体系となっている
- めざす方向性（案）：  
基本料金の比率を高める方向で見直しを検討

#### ③逓増度

- 現状の課題：  
水道事業・下水道事業ともに、近隣中核市と比較して高い水準となっている
- めざす方向性（案）：  
小口利用者への影響に配慮しつつ、逓増度の見直しを検討

## 審議事項 1 目標指標の追加 –マッピング–

	これまで	これから
料金・使用料 改定検討のアラート	 ・ <u>収益的収支（損益）が赤字</u> ※経営シミュレーションは十分に活用できていなかった	 ・ <u>経営シミュレーションの結果、 収益的収支（損益）が赤字</u>
めざす経営の 方向性の検討 （目標指標設定）	※これまで十分に検討できていなかった	収益的収支（損益）に加え、以下の点から、 経営状態を考察  <b>（めざす経営の方向性）</b> ✓ 借金に頼りすぎないこと（世代間負担の 公平性に配慮） ✓ 事業を実施するための必要な運転資金 （現金）を保有できていること
実際の改定検討	・収益的収支（損益）の赤字を 解消できるよう、改定を検討	・収益的収支（損益）のみならず、 めざす経営の方向性を踏まえた 改定を検討

- ・今後は、中長期の視点・あるべき経営状態の視点から改定を検討
- ・経営状態を明確にするための「目標指標」の設定が不可欠

## 審議事項 1 目標指標の追加

○第2次とよなか水未来構想では、以下の経営目標指標とめざすべき目標水準を設定

(水道)	<b>流動比率</b>	<b>100%以上</b>
	<b>料金回収率</b>	<b>100%以上</b>
(下水道)	<b>経費回収率</b>	<b>100%以上</b>

※流動比率

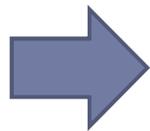
1年以内に支払うべき債務に対して支払い可能な現金などがあるかを示す指標。

※料金回収率、経費回収率

水道料金や下水道使用料で回収すべき経費について、どの程度回収できているかを示す指標。

○中長期的な観点から料金・使用料改定を行っていくためには、財政基盤の強化や世代間負担の公平性などの観点も必要

○保有すべき現金預金や企業債への依存度などの水準が必要



**新しい経営目標指標とめざすべき目標水準を設定**

## 審議事項 1 目標指標の追加 – 水道事業 –

指 標	目標水準及び追加指標の採用根拠
① 料金回収率	100%以上
② 流動比率	100%以上
③ 企業債残高対給水収益比率	<p><b>現状の水準を維持（悪化させない）</b>            （根拠）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間負担の公平性に配慮</li> <li>・類似団体の水準も考慮</li> <li>・経営シミュレーションを踏まえ、実現可能であると見込む</li> </ul>
④ 現金預金残高	<p><b>20億円以上を保有</b>            （根拠）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流動比率は一時点の水準であり、それだけでは不十分</li> <li>・資金繰り分析を踏まえ、実現可能であると見込む</li> </ul>

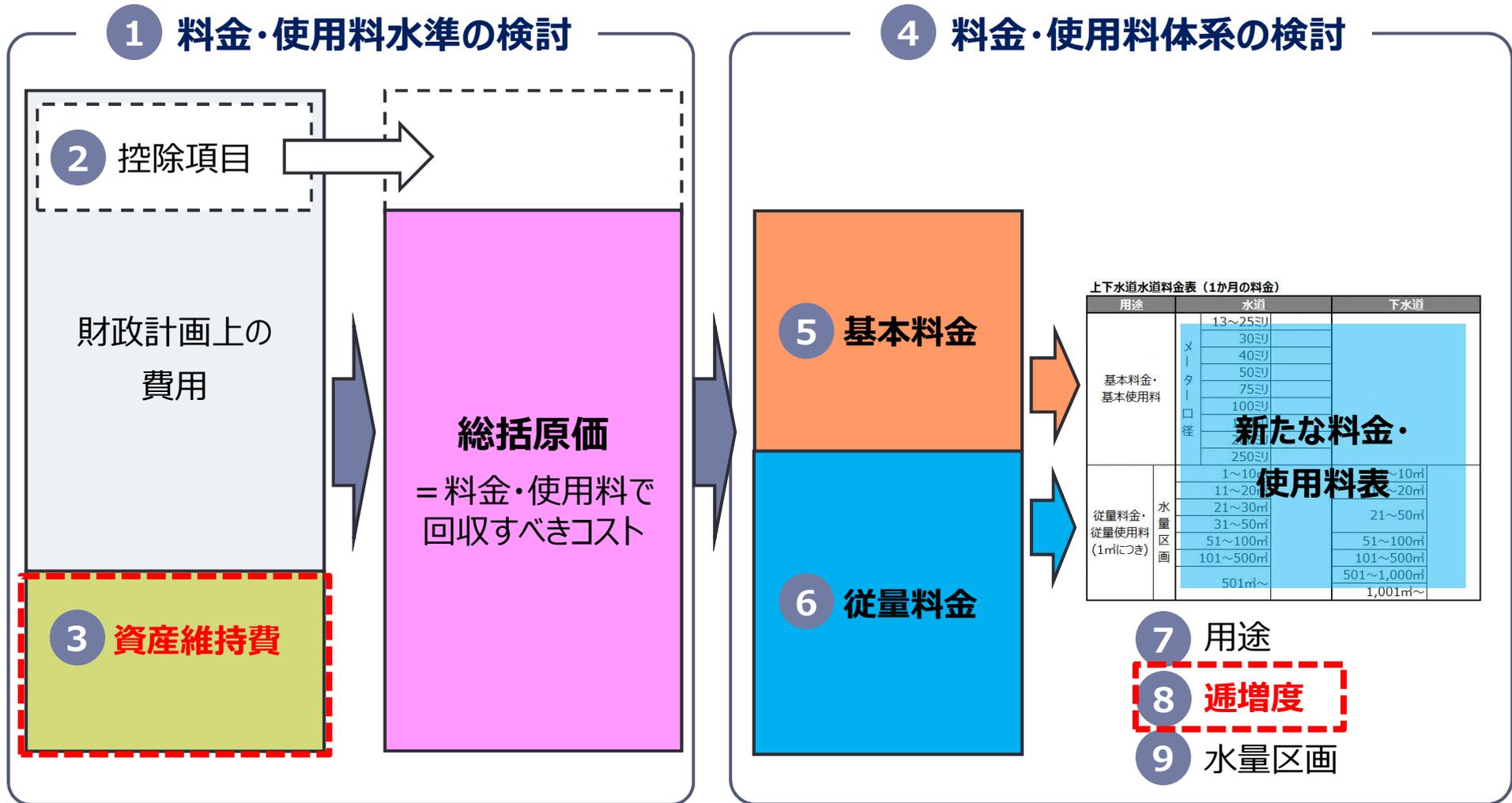
- ・赤枠が追加を検討している指標
- ・追加についてご審議賜りたい
- ・他団体比較は参考1のとおり

## 審議事項 1 目標指標の追加 – 下水道事業 –

指 標	目標水準及び追加指標の採用根拠
① 経費回収率	100%以上
② 流動比率	100%以上 (根拠) ・水道事業に合わせて追加 ・経営シミュレーションを踏まえ、実現可能であると見込む
③ 企業債残高対事業規模比率	現状の水準を維持（悪化させない） (根拠) ・世代間負担の公平性に配慮 ・類似団体の水準も考慮 ・経営シミュレーションを踏まえ、実現可能であると見込む
④ 現金預金残高	40億円以上を保有 (根拠) ・流動比率は一時点の水準であり、それだけでは不十分 ・資金繰り分析を踏まえ、実現可能であると見込む

- ・赤枠が追加を検討している指標
- ・追加についてご審議賜りたい
- ・他団体比較は参考1のとおり

# 審議事項 2 新たな料金・使用料の検討 –マッピング–



上下水道水道料金表 (1か月の料金)

用途	水道	下水道
基本料金・ 基本使用料	メーター口径 13~25mm	新たな料金・ 使用料表
	30mm	
	40mm	
	50mm	
	75mm	
	100mm	
従量料金・ 従量使用料 (1㎡につき)	250mm	1~10㎡
	1~10㎡	11~20㎡
	11~20㎡	21~30㎡
	21~30㎡	31~50㎡
	31~50㎡	51~100㎡
	51~100㎡	101~500㎡
	501~1,000㎡	1,001㎡~

・赤字が本日、ご審議賜りたい事項

## 審議事項 2 新たな料金・使用料の検討 ー 具体の論点 ー

項目	考え方
① 料金・使用料水準	総括原価方式を採用する
② 控除項目	「水道料金算定要領」及び「下水道使用料算定の基本的考え方」に基づく水道加入金は、導入時の趣旨を鑑み、今後の取り扱いを検討する
③ 資産維持費	投資状況や経営状況を踏まえ、経営目標指標を達成できる水準とする
④ 料金・使用料体系	現行の基本料金及び従量料金による「二部料金制」を基本とし、基本料金の比率を高める方向で見直す
⑤ 基本料金・基本使用料	水道では現行の「口径別料金体系」を、下水道では現行の「単一使用料体系」を基本とする
⑥ 従量料金・従量使用料	「逓増料金制」と「用途別料金制」を併用する
⑦ 用途	現行の「一般用」、「湯屋用」及び「臨時用」を基本とする
⑧ 逓増度	近隣団体や類似団体と比べ「逓増度」が高いため、他団体の状況等も十分勘案しながら、小口利用者への影響に配慮しつつ、逓増度を下げる
⑨ 水量区画	使用実態や近隣団体の状況等を確認しながら、今後の取り扱いを検討する

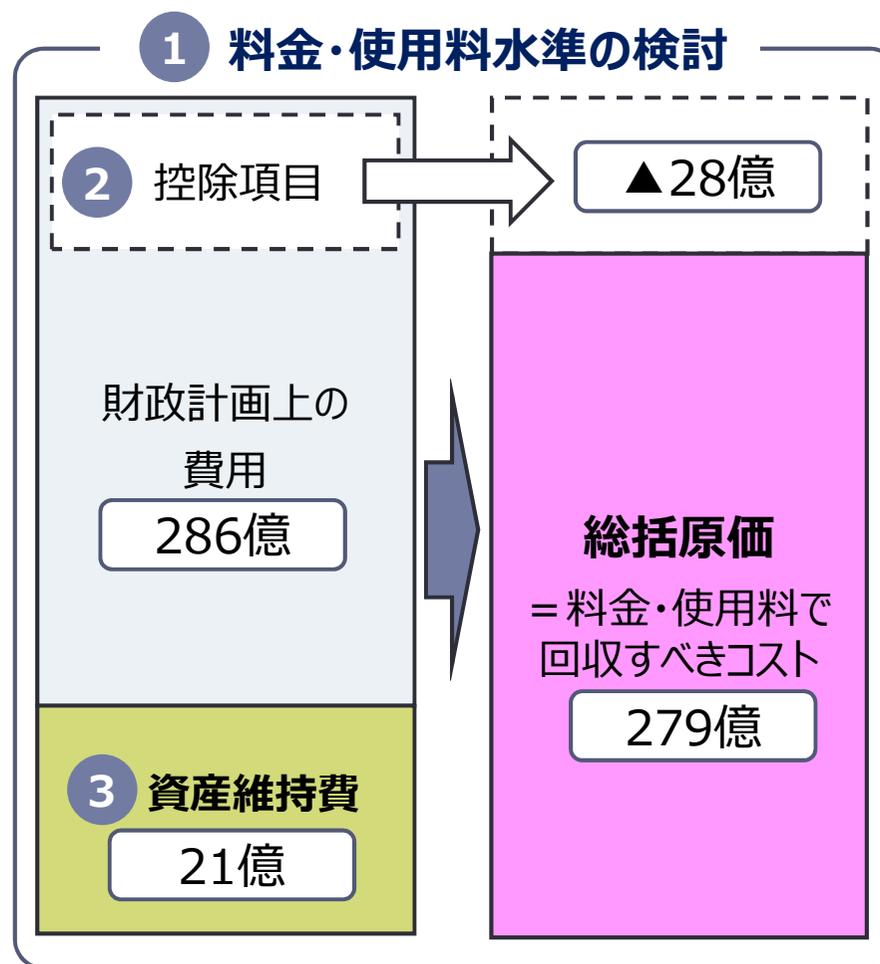
・赤字が本日、ご審議賜りたい事項

・⑦～⑨の他団体比較は参考 1 のとおり

## 新たな料金の試算例 ー料金水準の検討イメージー

### ○前提条件

- ✓ 料金算定期間：R6～R9（4年間）
- ✓ 資産維持費：経営目標指標が達成できる水準（資産維持率1.3%）
- ✓ 逓増度：北摂7市平均「3.51」程度と府内平均「3.24」程度を目安
- ✓ その他、用途や水量区画等については現行の料金体系を踏襲



# 新たな料金の試算例 ー料金体系の検討イメージー

## 4 料金・使用料体系の検討

費用の種類  
により分解

**総括原価**  
279億

**需要家費**  
✓ 検針・メーター関係費  
12億

**固定費**  
✓ 人件費・修繕費  
✓ 減価償却費  
✓ 支払利息 等  
161億

**変動費**  
✓ 動力費・薬品費  
✓ 受水費 等  
106億

**5 基本料金**  
89億

施設利用率  
により配分

**6 従量料金**  
190億

### 新たな料金・使用料表

料金体系（1か月の料金）

		現行	新
基本料金	メーター口径 一般用 湯屋用	13~25mm	760 ●●●
		30mm	920 ●,●●●
		40mm	1,160 ●,●●●
		50mm	1,700 ●,●●●
		75mm	3,860 ●,●●●
		100mm	6,020 ●,●●●
		150mm	17,910 ●●,●●●
従量料金 (1㎡につき)	水量区画 一般用	200mm	40,180 ●●,●●●
		250mm	71,070 ●●,●●●
		1~10㎡	20 ●●
		11~20㎡	●●
		21~30㎡	●●
		31~50㎡	●●
		51~100㎡	338 ●●
101~500㎡	●●		
501㎡~	●●		

**7 用途**

**8 逡増度**

**9 水量区画**

## 新たな料金の試算例① ー試算結果の概要ー

○水道料金（改定率：16.34%）

○逓増度（北摂7市平均）

	現行料金	新料金
想定最小単価	96円	105円
最高単価	421円	368円
逓増度	4.39	<b>3.51</b>

【逓増度の計算方法】

・ $1\text{m}^3$ あたり最高単価 ÷  $1\text{m}^3$ あたり想定最小単価※

※想定最小単価 = (口径20mmの基本料金+ $10\text{m}^3$ 使用した時の従量料金) ÷  $10\text{m}^3$

※新料金の想定最小単価は北摂7市平均

一般家庭（メーター口径20mm・1か月20m<sup>3</sup>）



※大口需要者は、逓増度の設定条件により、従量料金が下がる可能性あり

## 新たな料金の試算例② 一試算結果の概要一

○水道料金（改定率：16.34%）

○逓増度（府内平均）

	現行料金	新料金
想定最小単価	96円	104円
最高単価	421円	336円
<b>逓増度</b>	4.39	<b>3.24</b>

【逓増度の計算方法】

・1m<sup>3</sup>あたり最高単価 ÷ 1m<sup>3</sup>あたり想定最小単価※

※想定最小単価 = (口径20mmの基本料金+10m<sup>3</sup>使用した時の従量料金) ÷ 10m<sup>3</sup>

※新料金の想定最小単価は府内平均

一般家庭（メーター口径20mm・1か月20m<sup>3</sup>）



※大口需要者は、逓増度の設定条件により、従量料金が下がる可能性あり

## 新たな料金の試算例 ー試算結果の概要ー

○水道料金（改定率：16.34%）

○収益的収支（損益）

<b>現行料金 (R9)</b>		<b>新料金 (R9)</b>
<b>▲3.8億円</b>		<b>7.4億円</b>

○経営目標指標

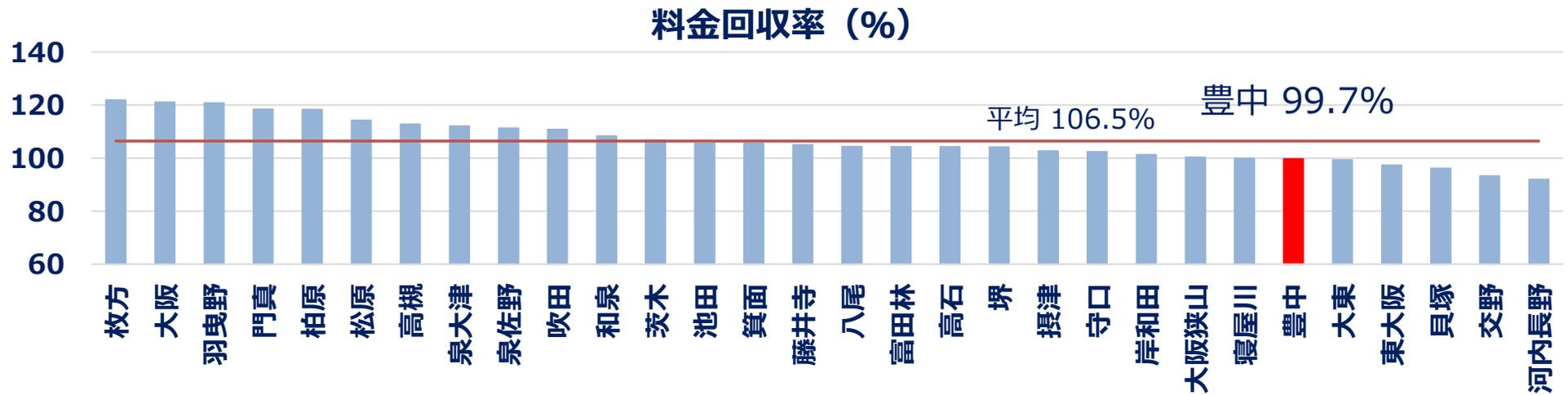
指 標	現行料金 (R9)	新料金 (R9)
① 料金回収率	85%	101%
② 流動比率	16%	133%
③ 企業債残高対給水収益比率	368%	309%
④ 現金預金残高	<b>▲4億円</b>	<b>36億円</b>

- 算出式  $供給単価 \div 給水原価 \times 100$
- 指標の意味 給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す。  
100%を下回っている場合、給水にかかる費用を料金収入以外の収入で賄っていることを意味する。

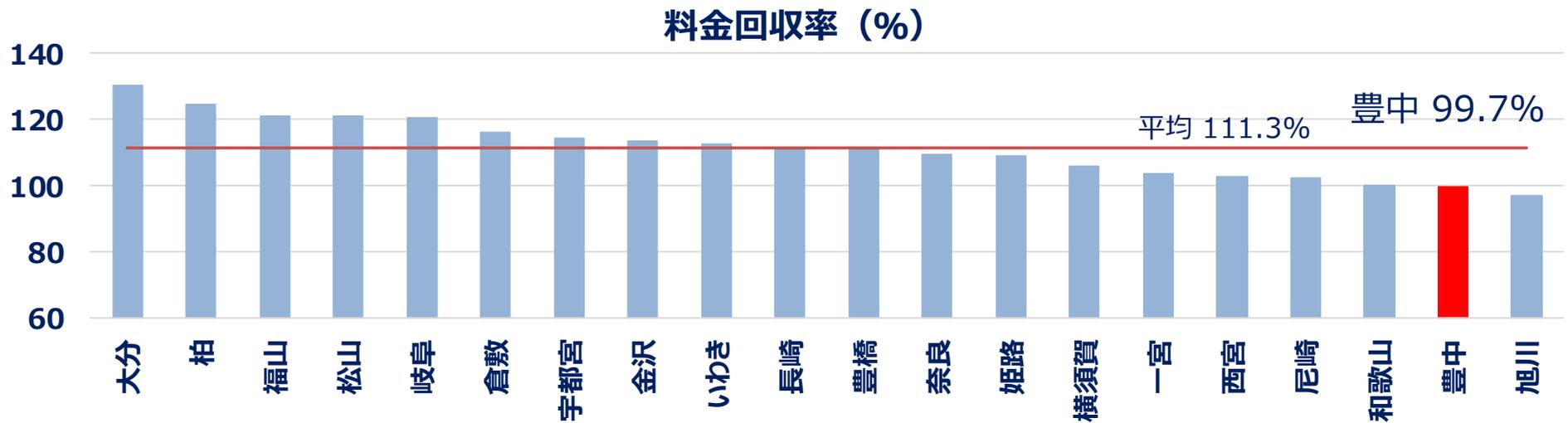
■豊中市の実績と推計（目標水準 100%以上）



## ■府内の比較（参考）



## ■類似団体の比較（参考）



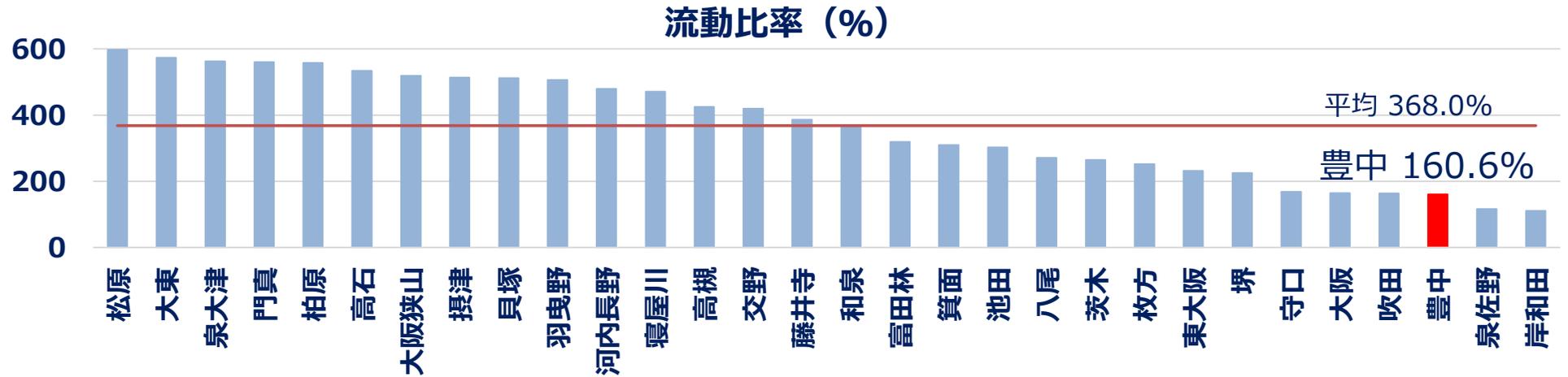
## 流動比率

- 算出式  $\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$
- 指標の意味 短期的な債務に対する支払い能力を表す。  
民間企業では200%以上が望ましいとされている。流動資産及び流動負債それぞれの項目についても注視する必要がある。

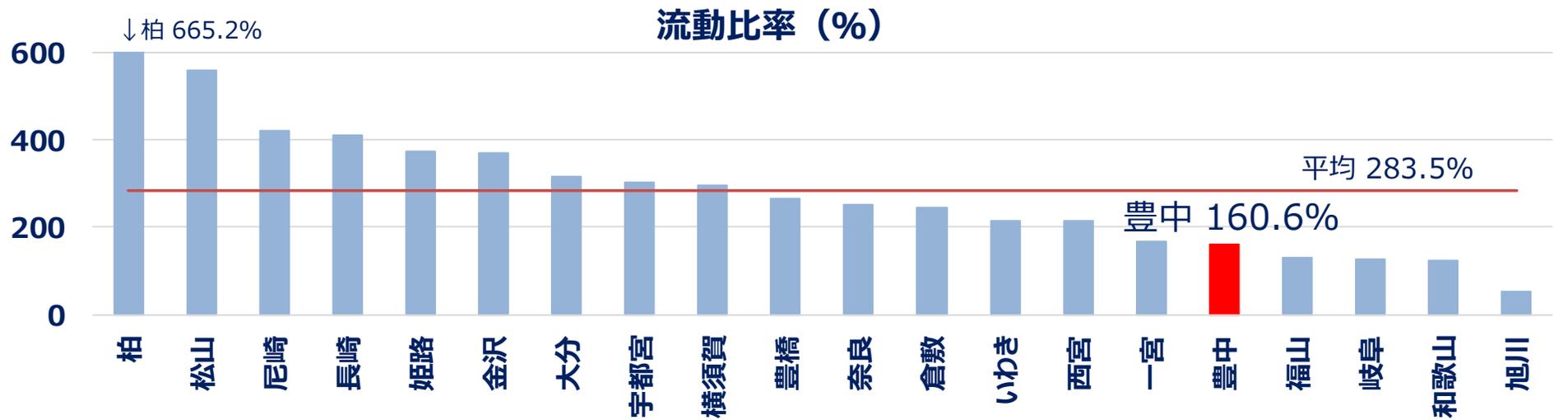
### ■ 豊中市の実績と推計（目標水準 100%以上）



## ■府内の比較（参考）



## ■類似団体の比較（参考）



## 水道事業③

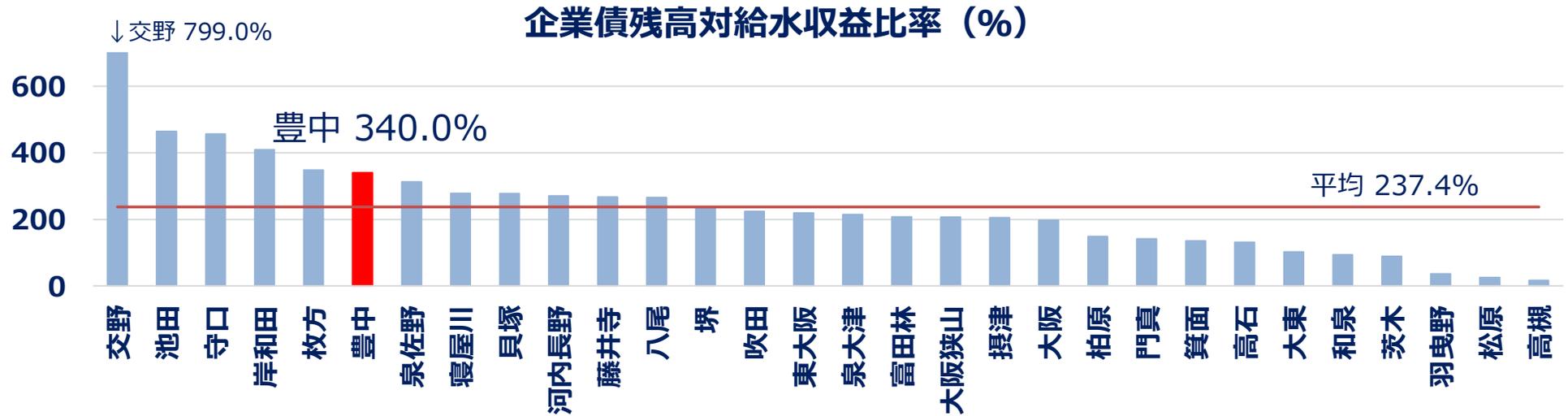
# 企業債残高対給水収益比率

- 算出式  $企業債残高 \div 給水収益 \times 100$
- 指標の意味 世代間の負担の公平のため、一定程度は必要であるが、数値は低い方が望ましい。企業債利息などの負担が経営を圧迫しないように、企業債残高の水準を注視していく必要がある。

### ■ 豊中市の実績と推計（目標水準 現状の水準を維持）



## ■府内の比較（参考）



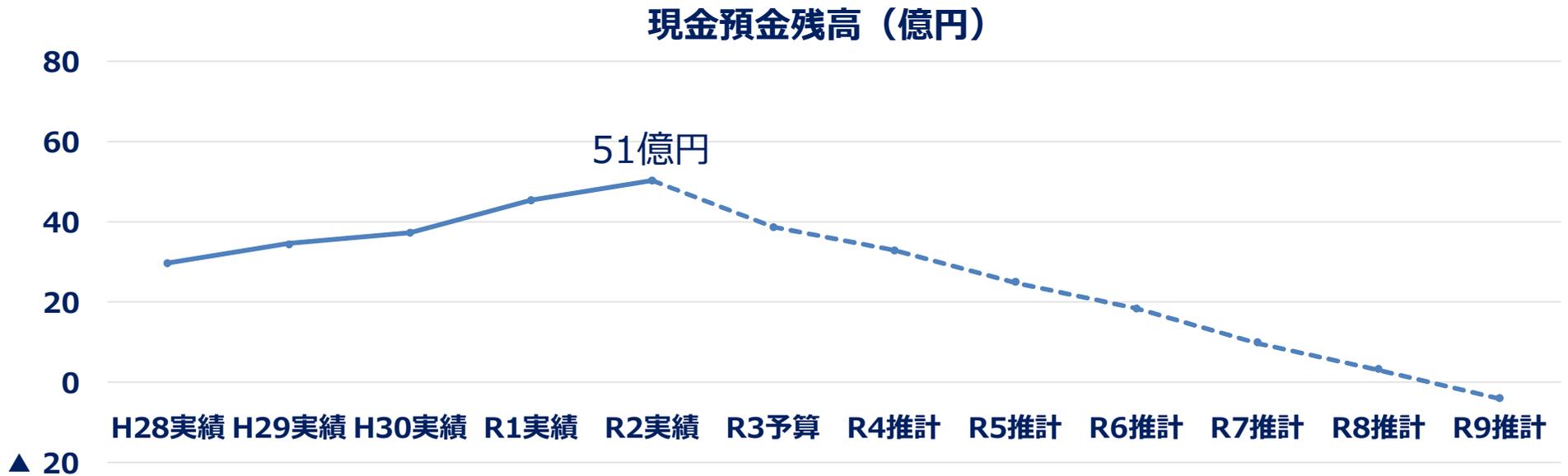
## ■類似団体の比較（参考）



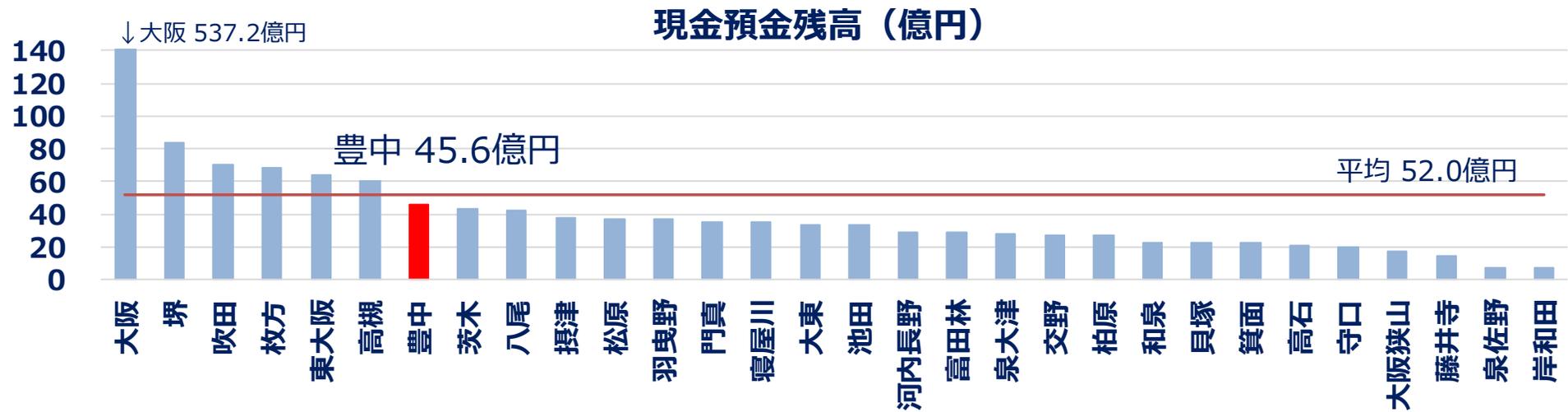
現金預金残高

- 算出式 貸借対照表の現金預金
- 指標の意味 保有する現金と預金の合計額。  
資金繰りに大きく影響する指標で、日常業務はもとより、災害時等の緊急時にも備えて、一定以上の額を保有しておく必要がある。

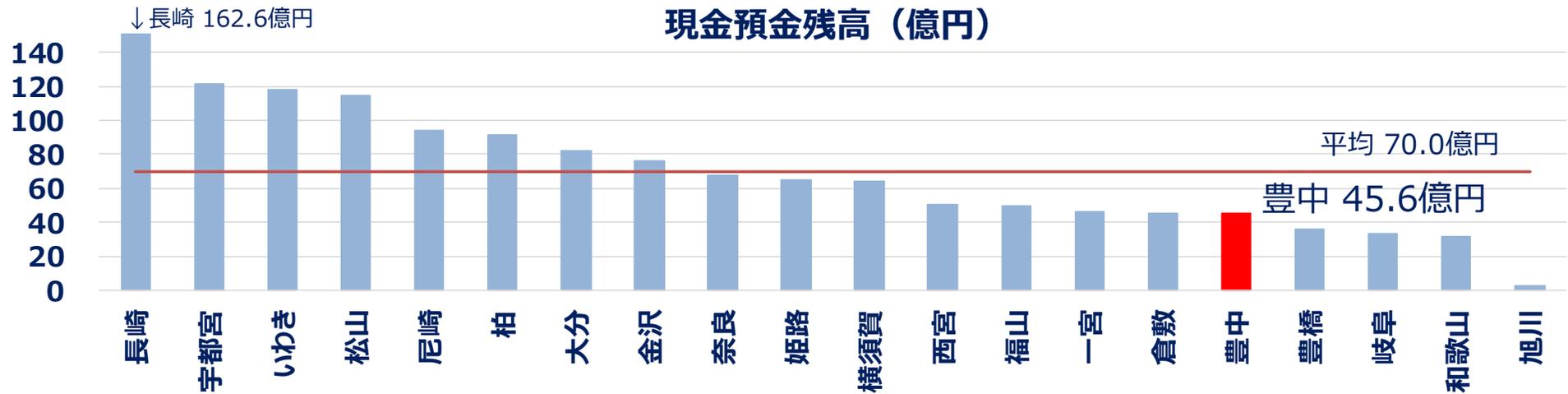
■ 豊中市の実績と推計（目標水準 20億円以上を保有）



## ■府内の比較（参考）



## ■類似団体の比較（参考）



## 下水道事業①

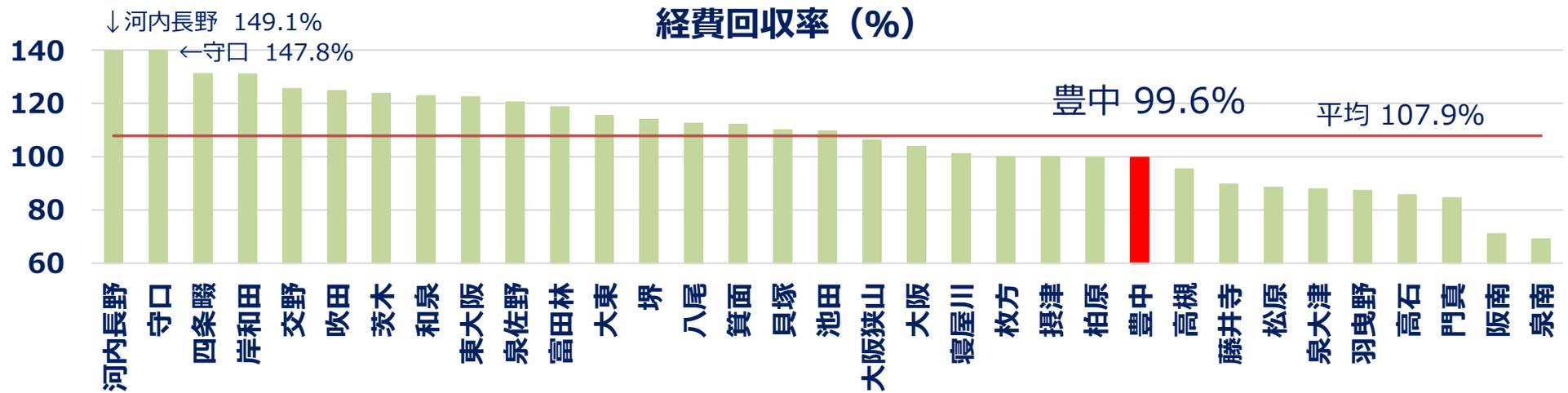
## 経費回収率

- 算出式  $\text{下水道使用料} \div \text{汚水処理費} \times 100$
- 指標の意味 汚水処理に係る費用が、どの程度使用料収入で賄えているかを表す。  
100%を下回っている場合、汚水処理にかかる費用を使用料収入以外の収入で賄っていることを意味する。

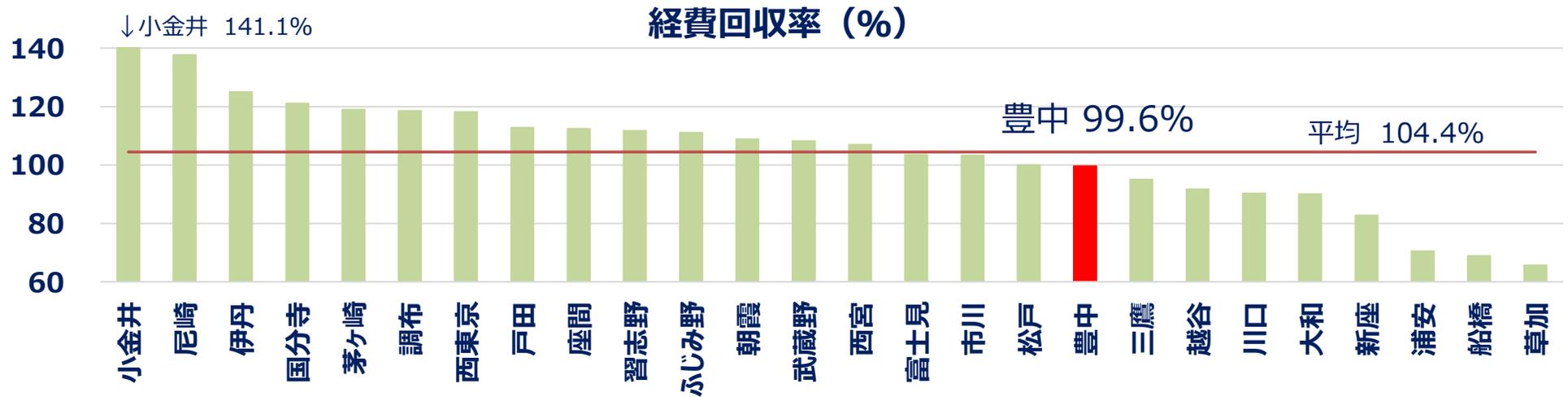
### ■ 豊中市の実績と推計（目標水準 100%以上）



## ■府内の比較（参考）



## ■類似団体の比較（参考）



## 下水道事業②

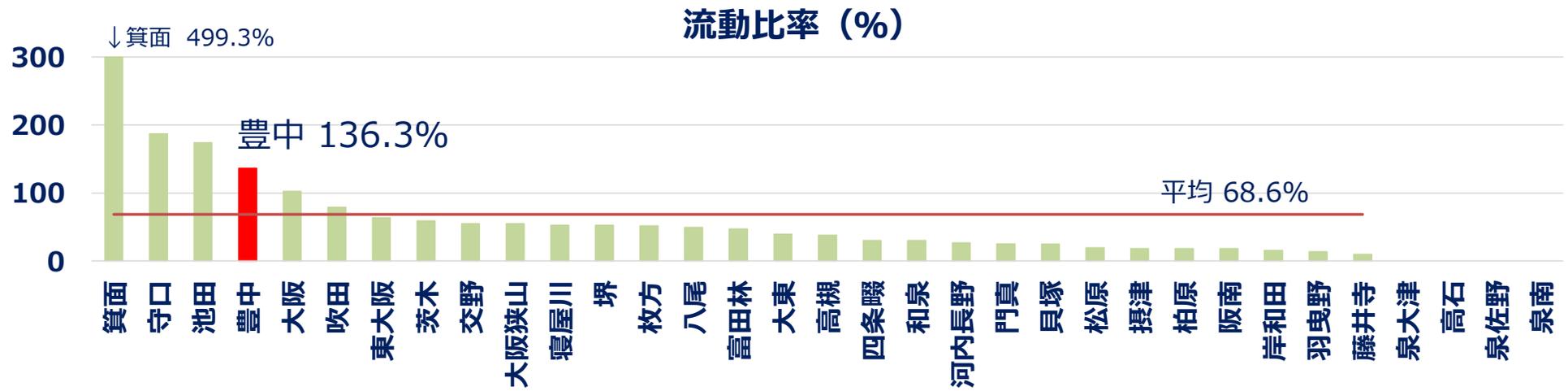
## 流動比率

- 算出式  $\text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100$  (地方公営企業法非適用の団体を除く)
- 指標の意味 短期的な債務に対する支払い能力を表す。  
民間企業では200%以上が望ましいとされている。流動資産及び流動負債それぞれの項目についても注視する必要がある。

### ■ 豊中市の実績と推計 (目標水準 100%以上)



## ■府内の比較（参考）



## ■類似団体の比較（参考）



## 下水道事業③

## 企業債残高対事業規模比率

■ 算出式 
$$\text{企業債残高} \div (\text{営業収益} - \text{受託工事収益}) \times 100$$

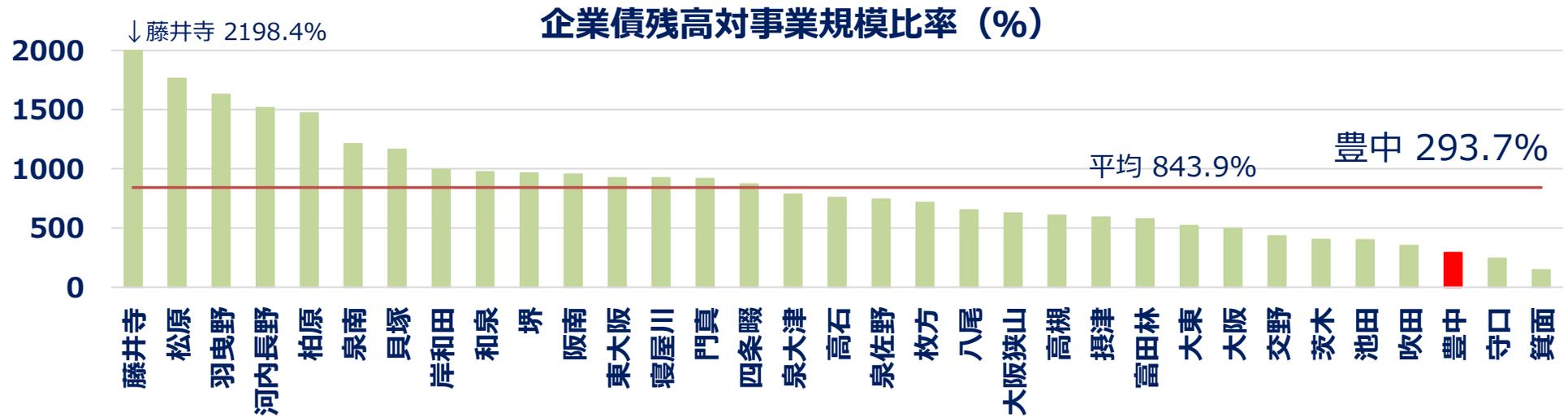
※公費負担分を除く

■ 指標の意味 世代間の負担の公平のため、一定程度は必要であるが、数値は小さいほうが望ましい。企業債利息などの負担が経営を圧迫しないように、企業債残高の水準を注視していく必要がある。

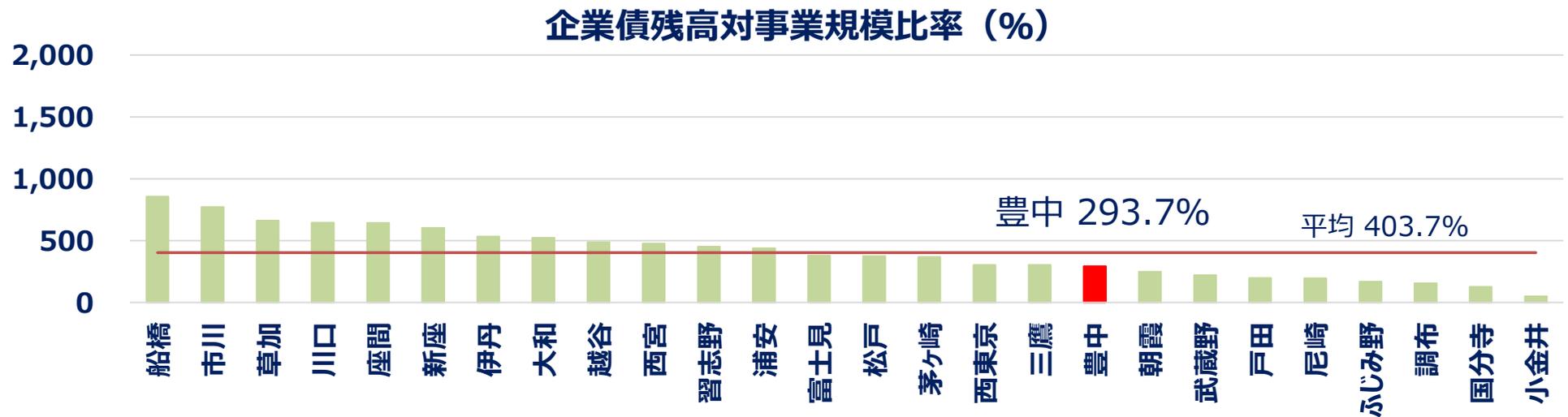
■ 豊中市の実績と推計（目標水準 現状の水準を維持）



## ■府内の比較（参考）



## ■類似団体の比較（参考）



## 下水道事業④

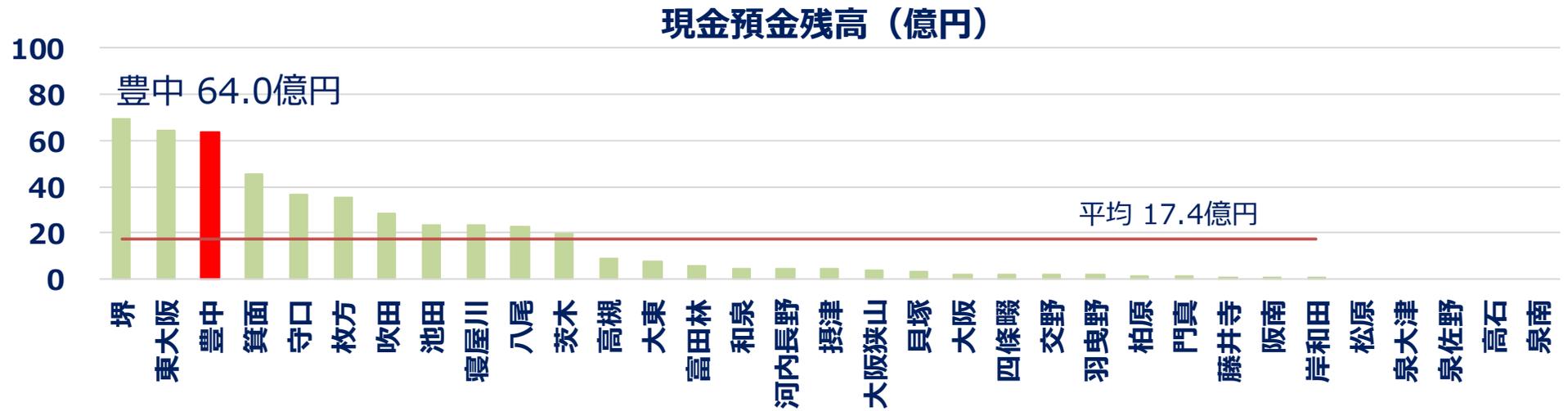
## 現金預金残高

- 算出式 貸借対照表の現金預金（地方公営企業法非適用の団体を除く）
- 指標の意味 保有する現金と預金の合計額。  
資金繰りに大きく影響する指標で、日常業務はもとより、災害時等の緊急時にも備えて、一定以上の額を保有しておく必要がある。

### ■ 豊中市の実績と推計（目標水準 40億円以上を保有）



## ■ 府内の比較（参考）



## ■ 類似団体の比較（参考）



## 他団体の用途数

○本市は、水道料金・下水道使用料ともに「一般用」、「湯屋用」、「臨時用」の3区分を設けている。

○他の団体では、水道料金で3区分、下水道使用料で2区分の団体が多い。

	水道料金		下水道使用料		
	府内	類似団体	府内	類似団体	
1 区分			1 ←大阪狭山		
2 区分	5	5	28	21	
3 区分	15	7	4	5	←豊中
4 区分	3	7 ←金沢			
5 区分	6	1			
6 区分	4				

# 他団体の逓増度（水道）

○本市の逓増度は、府内で最も高い。

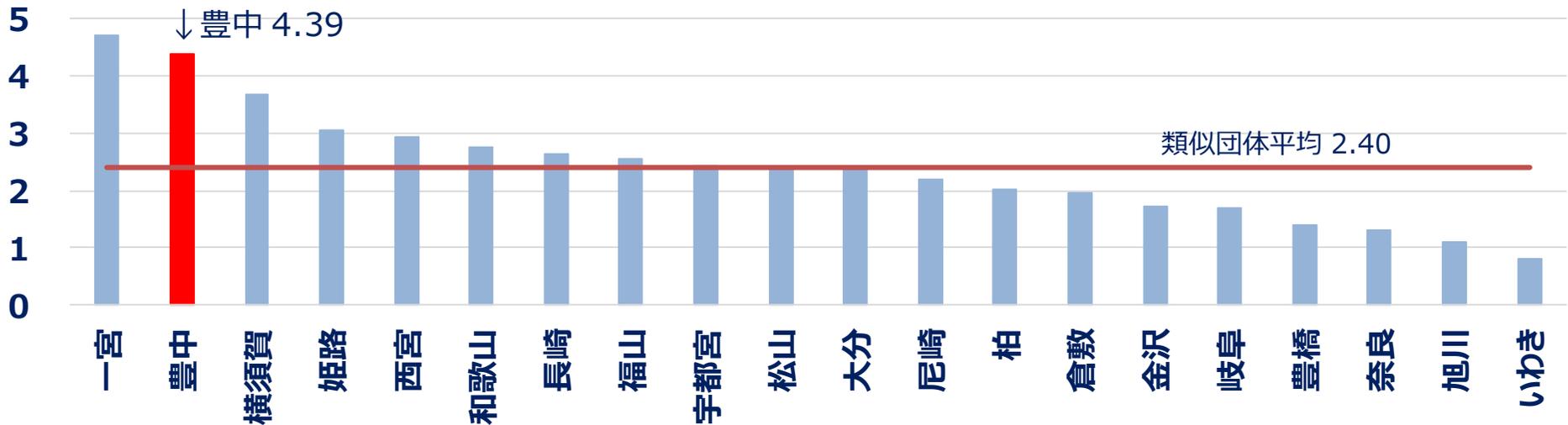
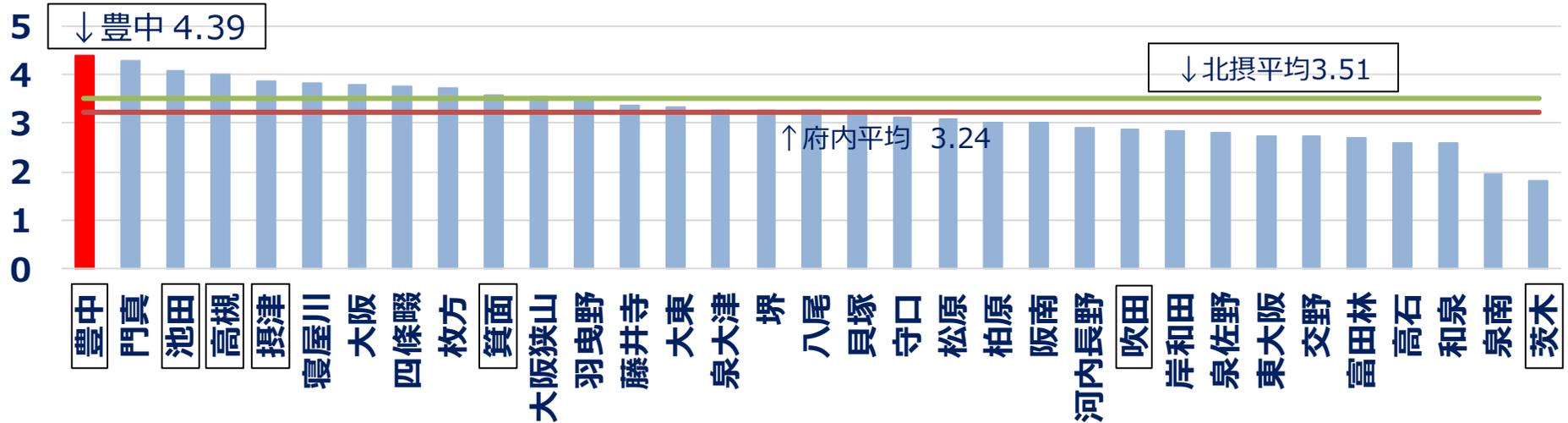
○類似団体の中でも、2番目に高い。

【逓増度の計算方法】

・1m<sup>3</sup>あたり最高単価÷1m<sup>3</sup>あたり想定最小単価※

※想定最小単価 = (口径20mmの基本料金 + 10m<sup>3</sup>使用した時の従量料金) ÷ 10m<sup>3</sup>

・メーター使用料を含む



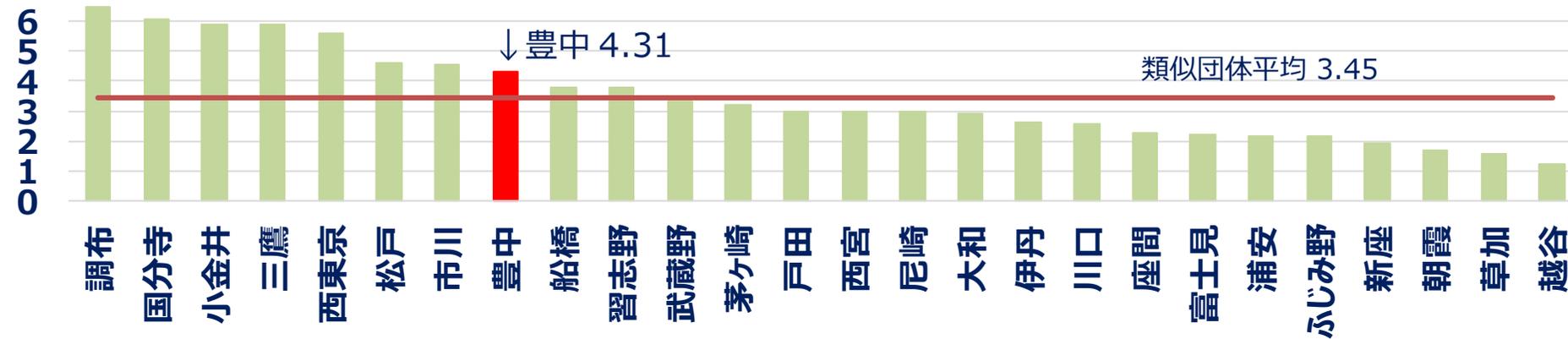
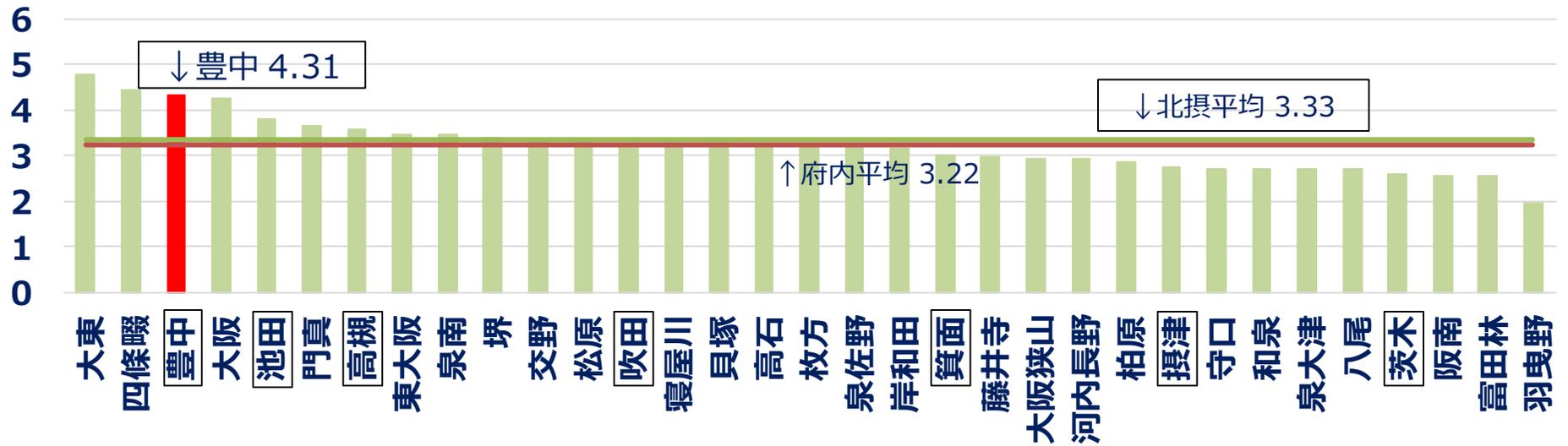
# 他団体の逓増度（下水道）

- 本市の逓増度は、府内で3番目に高い。
- 類似団体の中でも、平均より高い。

【逓増度の計算方法】

1㎡あたり最高単価÷1㎡あたり想定最小単価※

※想定最小単価 = (基本使用料 + 10㎡使用した時の従量使用料) ÷ 10㎡



## 他団体の水量区画数

○本市は、水道料金・下水道使用料ともに7区画設けている。

○府内では、水道料金で8区画、下水道使用料で7区画の団体が多い。

	水道料金		下水道使用料		
	府内	類似団体	府内	類似団体	
1 区画		1 ←旭川			
2 区画		1 ←岐阜			
3 区画		1 ←奈良			
4 区画	1 ←東大阪	3	1 ←守口	1 ←富士見	
5 区画	1 ←羽曳野	7	1 ←高槻	2	
6 区画	9	4	3	5	
7 区画	7	3	9	5	←豊中
8 区画	11		7	8	
9 区画	4		8	4	
10 区画以上			4	1 ←西宮	